

こば たけし
古葉 竹識さん 75

顔



撮影・杉本昌大

に」とも言い続けた。自身、熊本の名門・済々黌高から東京の私立大に進みながら、1年足らずで中退した経験を持つ。だから、高度な野球技術を植え付けるよりも学業を優先させ、人間形成に重きを置いた。

75歳になっても、颯爽としたユニホーム姿は変わらない。「一緒に戦っているのだから」と試合中はベンチに腰掛けることはなく、ダッグアウトの隅に立ってグラウンドに目を配る。「しっかり見てあげないと、選手は甘い野球でいいんだと思ってしまふ」と言う厳しさは、プロ時代と一緒だ。就任4年目の初優勝にも「長かったとは思わない。1年1年が本当に短いから」。実に楽しそうに目を細めた。

プロ野球・広島を創立26年目で初優勝に導いた名将が、無名の大学チームに創部47年目で初の栄冠をもたらした。2008年春に就任してから、「できないことをやれとは言わない。できることを精いっぱいやって、悔いが残らないようにしよう」と、孫のような選手たちに基本プレーの大切さを説いてきた。一方で、「学生は勉強が一番大事。4年間できちんと卒業して、社会の役に立てる人間

(運動部 山脇幸二)